



平成17年11月16日

国立大学法人 広島大学

独立行政法人 放射線医学総合研究所

広島大学と放射線医学総合研究所は「教育、研究及び診療等の協力に関する協定」を締結
～～ 包括的な研究協力を推進 ～～

【概要】

国立大学法人広島大学（広島県東広島市，学長：牟田泰三）と独立行政法人放射線医学総合研究所（千葉県千葉市，理事長：佐々木康人）は，教育，研究及び診療活動の一層の充実を図るとともに，相互の教育研究協力を推進し，その成果の普及を促進することにより，我が国の放射線分野の発展・継承に寄与するために協定を締結することに合意し，本日調印する。

大学附置研究所として唯一の放射線影響研究分野の中核的研究機関である原爆放射線医科学研究所を有する国立大学法人広島大学と，放射線分野における我が国唯一の総合研究所である独立行政法人放射線医学総合研究所が，幅広い協力の下に連携することにより，国内だけでなく世界の放射線分野の発展と継承に多大な貢献が期待される。

【協定締結の目的】

広島大学と放射線医学総合研究所は，それぞれが放射線と人体にかかわる専門的な研究施設を保有するとともに，独自の研究業務に取り組んでいる。両者が包括的な研究協力協定を締結することにより，さらに高度な研究成果を得ることができる。研究分野は，放射線影響や被ばく医療，放射線先進医療などの広範な分野に及び，特に，緊急被ばく医療研究分野については，両者が国の中央防災会議の定める地域三次被ばく医療機関に指定されていることなどから，人的交流や研究情報の交換等を通じて放射線分野の発展のため緊密な協力体制を構築する。

【研究協力の範囲と活動の形態】

今回の協定では，放射線影響に関すること，被ばく医療に関すること及びがん治療に関することを協力分野とし，具体的には下記の3点について共同研究・事業等を推進する。

- (1) 教育，研究及び診療等に関すること。
- (2) 教職員，学生及び研究生等の交流に関すること。
- (3) 研究資料，刊行物及び研究情報の交換等に関すること。

国立大学法人 広島大学：

「世界トップレベルの特色ある総合研究大学」を目指す国立大学法人広島大学は，独自の学士課程及び大学院教育の充実による人材育成に努めるとともに，基礎的・先端的研究の更なる活性化を図り，本学の知的・人的・物的資産の社会的利活用も推進している。平成14年度に大学院医歯薬学総合研究科を設置し，医学・歯学・薬学の総合的研究及び学際的研究に加え，先進的研究を推進して生命医科学分野の新しい学問を切り開く体制が整備された。この研究科では，広島大学唯一の附置研究所である原爆放射線医科学研究所の教員が参加し，研究科教員と協力して「放射線障害医学」を始めとする広島大学に特徴的なカリキュラムを開講している。

原爆放射線医科学研究所は、我が国最大の放射線影響分野の大学附置研究所であり、ゲノム科学等の学術を導入した放射線の人体影響とその治療開発研究を推進するとともに、これまで多くの次世代の放射線医科学・医療分野の研究者及び医師の育成を行ってきた。平成15年度からは、21世紀COEプログラム「放射線災害医療開発の先端的研究教育拠点」がスタートし、研究所、大学院医歯薬学総合研究科及び大学院理学研究科のメンバーが総力を結集して「放射線障害の研究と治療開発」の世界拠点の確立に向けた研究教育活動を推進している。

平成16年には、広島大学が西日本地区の拠点としての国の「地域の三次被ばく医療機関」に指定された。本学では、直ちに研究所及び大学病院の教員が中心となり、大学院医歯薬学総合研究科、自然科学研究支援開発センター及び大学院教育学研究科（心理臨床教育研究センター）の協力を得て、我が国の緊急被ばく医療を担う体制の整備を進めている。また、大学病院では放射線災害に対処できる被ばく者医療体制の整備と新規の粒子線治療装置を導入した「がん治療センター（仮称）」構想を、原爆放射線医科学研究所と密接な連携の下に検討している。

独立行政法人 放射線医学総合研究所：

放射線医学総合研究所は、放射線による人体への影響と障害予防、診断・治療方法の開発、並びに放射線の医学利用に関する研究開発を総合的に行う我が国唯一の中核的研究機関として、独創的で先進的な業務に取り組んでいる。

〔放射線安全研究〕に関しては、環境における放射性物質の動態と低線量放射線影響研究や宇宙放射線による生体影響に関する研究など放射線防護基準策定に寄与する研究を実施。〔緊急被ばく医療研究〕に関しては、我が国の緊急被ばく医療体制の中核機関（中央防災会議の定める三次被ばく医療機関）として位置付けられ、急性放射線障害の機構・治療研究や緊急時の線量評価研究及び除染剤・防護剤研究において多くの成果を挙げるとともに、先のJCO臨界事故時には三人の被ばく患者を受け入れる等、具体的な貢献も行った。また、〔放射線先進医療研究〕に関しては、独自に開発した重粒子がん治療装置（HIMAC）を用いた重粒子線治療研究や高度画像診断技術などの放射線先進医療研究実績が世界的に高く評価され、平成15年10月、HIMACによるがん治療が厚生労働省によって高度先進医療として承認された。現在、小型普及機開発に向けた開発研究に期待が寄せられている。

これらの研究は、人類の健康の維持と安全・安心の社会を構築する上で極めて重要であると考えられ、今後とも放射線に関する総合研究機関として、放射線影響や治療に関する研究成果の世界への発信と、緊急被ばく医療体制及び国際的防護基準の枠組み整備に貢献するべく取り組んで行く。

（本件に関する問い合わせ先）

国立大学法人 広島大学

原爆放射線医科学研究所長 鈴木 文男

TEL：082-257-5824

FAX：082-257-5825

E-mail：fmsuzuki@hiroshima-u.ac.jp

独立行政法人 放射線医学総合研究所

広報室

TEL：043-206-3026

FAX：043-206-4062

E-mail：info@nirs.go.jp